

建設業の魅力知って

振興局と
北秋田協会
高校生に現場見学会

高校生を対象とした建設現場見学会が2日、北秋田市や大館市で開かれた。秋田北鷹高校（一関智子校長）の1年生12人が道路やトンネル、河川の工事現場を見学し、建設業への理解を深めた。

北秋田地域振興局と北秋田建設業協会（北林一成会長）の主催。社会基盤の整備など重要な役割を担う建設業に関心を持ってもらうようと、秋田北鷹の緑地環境科と大館桂枝の土木・建築科で学ぶ生徒を対象に毎年開催している。

この日は北鷹の生徒のほか、同協会の女性技術者でつくる建設女子部会「わかば」の5人が参加。北秋田市今泉の二ツ井今泉道路や大館市沼館

の下内河川改修事業の工事現場など計4カ所を見学した。

二ツ井今泉道路の工事現場では、建設が進む「今泉第一トンネル」（全長797㍎）を見学した。施工する大豊建設の担当者が工事の概要を説明。生徒たちはめったに見る機会がない舗装前のトンネル内を歩き、広さや長さなどを体感した。

小林拓野さん（北鷹）は「工事現場に来たのは初めてで、すごく新鮮。トンネルの概要や必要性、工事方法などを学ぶことができた。見学会のために協力していただいた方々に感謝し、今後の勉強を頑張りたい」と話した。

地域振興局企画・建設課の

高杉英幹課長は「見学会をきっかけに、一人でも多くの生徒が地元の建設業に就職することを願っている」と期待を

寄せた。

見学会は5日にも大館桂枝の1年生を対象に開催する。



トンネル内を見学する生徒たち（今泉第一トンネル）